



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第32号

2006.8.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

- 第6回 八幡湿原再生協議会の議事録が公開
- アオダイショウ「だいたい」の卵を展示

活動報告

- 土嶽の植生調査，夏（代替）
- 昆虫の灯火採集
- 湿原の観察－八幡湿原と自然再生事業－

観察会案内

- 氷河期の生き残り，カワシンジュガイの観察
- 小鳥の巣箱づくり
- 土嶽の植生調査，秋

高原からの花だより

- 高原の新しい花風景，オオハンゴンソウ

お知らせ

第6回 八幡湿原再生協議会の議事録が公開されました (2006.7.21)

広島県のホームページにて、第6回八幡湿原再生協議会の議事録（PDF ファイル）が公開されています。PDF ファイルの URL が長いので、議事録一覧のページへのリンクを載せておきます。きわめて見にくいページですが、「八幡湿原自然再生協議会」でページ内を検索してみてください。

議事録：<http://www.pref.hiroshima.jp/kaigi/gijirokuindex.html>

アオダイショウ「だいたい」の卵を展示しています

雌のアオダイショウ「だいたい」が自然館で産んだ卵を展示しています。ヘビの卵って見たことありますか？

活動報告

土嶽の植生調査、夏（代替）

開催日時：2006年7月22日（土）9:30

6月にできなかった植生調査を7月にやることにしましたが、今回は単純に「延期」ということ以上の意味がありました。1ヶ月の間に植物相が変わっているのです、経年比較は出来ませんが、夏の最盛期の植物を見ることが出来ました。何よりも大きかったのは、イネ科植物が花をつけていたことです。イネ科の植物は花や実がついていないと同定できないものが多く、毎回困っていたのです。ただ、今回は参加人数が少なかったため、チームは3班しかつくりることができませんでした。そのため、調査できなかったプロットが残ってしまい、少し残念でした。

お昼まで調査を行い、昼食を挟んで「希望者」だけで同定大会をしました。結局全員の参加者が集まりました。やっぱり同定と標本作りをしないと調査が終わった感じがしない、といったところでしょうか。花が付いているので、これまでは「イネ科の一種」となっていたかもしれない植物にも名前が付きしました。初めての参加者も迎え、次回以降に繋げることができたような気がします。実験地を設置してから3シーズンを経過した秋の調査がタノシミです。[し]



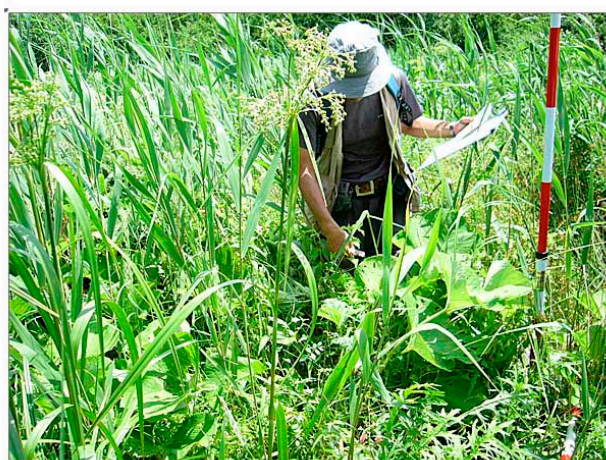
3班に分かれて調査開始。



ずいぶんヨシが増えたような印象。



現地に行く前に、これまでの経緯と調査の方法について説明した。



このプロットはオタカラコウなどが繁茂した。



下流部分の湿潤地調査.



大勢でやると楽しい.



感想などを言い合って、午前中の部はおしまい.



昼食をはさんで、標本をつくりながら同定.

みなさんの印象に残ったもの

「ヒメシロネだらけになったプロット H-12.」「1m×1mの植生調査」「あぜ波」を使った水路. 再生事業. このテーマを初めて耳にしたので印象深い.」「3年前に比べ、草本類が密生している.」「去年に比べて湿地が増加したこと.」「以前と植生が変わっていること. (2)」「種類の多さに驚きでした.」「だいたい湿生植物が回復してきた.」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「水の流れを変えたことによって、目に見えて植生が変化していると感じました. 以前はヨモギだらけだった所がヒメシロネだらけになっていた!!」「面白かった」「とても楽しく、意義のある会でした. また参加したい.」「去年にくらべ湿地生の植物が多く見られた. もっと参加したいと思います.」「現地で以前のデータを見ながら、その変化を実際に目で見られたのがよかった.」「初めての参加に感動. ぜひ次回も.」「再生事業となり、個人的には熱が入ってくる.」「協議会のメンバーの参加がもう少しあったらよいですね.」「調査、ということに少しビビりましたが、素人の自分でも、参加した、という充足感を得ることができました.」

活動報告

昆虫の灯火採集

開催日時：2006年7月22日(土) 18:30

講師：清水健一

幸い梅雨の晴れ間。午後からは蒸し暑く風のない、灯火採集にはもってこいの虫好みの条件が整い、いざ尾崎谷新川ため池の堰堤に向かいました。先生は今回もシーツや物干し竿、再利用品で虫のステージを着々と準備、少し手持ちぶさたに興味津々に暗くなるのを待ち、灯火。はじめはカナブンがたくさん。ヒグラシも集まってくるのにはちょっとびっくり。オオツノトンボが妖精みたいでかわいい。ハエの仲間は羽が2枚、ハチの仲間は羽が4枚と基本的な見分け方なども習い、だんだん多くの蛾が飛んで来て先生は名前スラスラ。蛾の突撃にも負けず、いろいろの不思議な美しい模様に関心しながら、夜も更けて行きました。待望のガムシも飛来し、念願のミヤマクワガタも雄雌とも飛来。初めは蝉も触れなかった子供がしっかり虫をつかめるようになるのがこの観察会の目玉でしょう。[や]

清水先生からは次のような報告を頂きました。

「今年の梅雨は豪雨のため大きな被害が出ており、広島県でも備北で被害が出ており、観察会の開催が危ぶまれ心配しましたが、当日は東の間の晴れ間(といっても曇天)となり、尾崎谷湿原で実施されました。灯火に虫が集まりやすい条件は、月が出ていなくて風がなく蒸し暑くて、私達にとって不快指数の高い日が良い条件になります。当夜は一時ガスもかかり、大変条件の良い夜でした。湿地と池(新川溜池)という場所柄のため、水性昆虫が多数飛んでくるのではと期待しましたが、意外に少なく期待はずれでした。いつも人気のあるヘビトンボはかなり集まりました。その他、目に付いた虫はヒグラシ(多)、オオツノトンボ、エゾシモフリスズメなどで、ミヤマクワガタは子どもさんにも大人にも大

変人気がありました。これから先もこの環境が保たれていくことを願っています。私の好きな蛾は、湿地生の蛾を期待しましたがまったく駄目でした。池があるので挺水植物を食べるミズメイガ類も期待しましたが駄目でした。蛾類はごく普通の種類ばかりでした。それでも蛾もよく見れば美しいものだと気付いて頂けたと思います。また、小さな虫が多数集まったので夜も多くの虫が活動していることがお分かり頂けたと思います。」



尾崎谷の堰堤で、暗くなるのを待つ。



先生の車に布がセットされる。



熟練の手際良さに目が釘付け.



ついにミヤマクワガタがやってきた



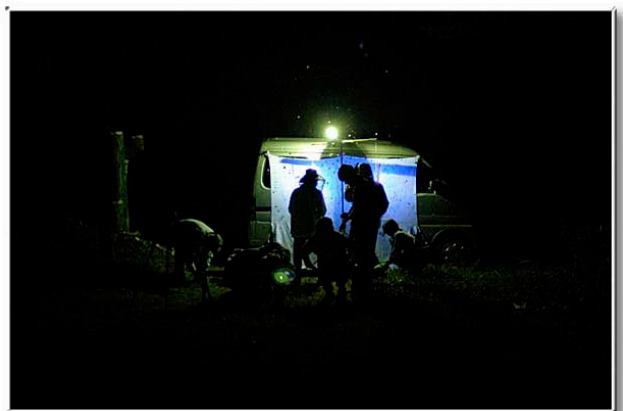
親子でヒグラシの観察.



終了間際、たくさんの虫で被われたシート.



ガの羽ばたき分かる.



暗闇の中、夜はふけた.

活動報告

湿原の観察-八幡湿原と自然再生事業-

開催日時：2006年7月23日(日) 9:30

講師：白川勝信

梅雨明けが待ち遠しく、雨が降ったり止んだりのなか、参加者22名で観察会が始まりました。毎年人気の湿原の観察会ですが、今回は自然館付近の水口谷湿原と、自然再生事業地である土嶽地区の湿原で観察会を行いました。講師は高原の自然館の白川です。

最初に自然再生事業の概要などの話を聞いてから、自然館前を出発しました。水口谷湿原をめざして歩いていると、アサギマダラを発見しました。この蝶の食草はイケマというガガイモ科の植物であることや「旅をする蝶」という特長があると知りました。優雅に飛び、蜜を吸う姿はとても可憐でした。水口谷湿原では、前回(6/24)に行われた観察会では見られなかった植物たちが花を咲かせていました。ハンカイソウ、サワヒヨドリ、ミゾソバ、オカトラノオ、ビッチュウフウロ、チダケサシ、トモエソウ、クサレダマなどなどです。マムシグサ、ウリハダカエデ、カンボク、カラコギカエデ、イソノキ、ヤブデマリなどは、既に実をつけていました。そして昆虫も、スジグロシロチョウ、イカリモンガ、ツマグロキチョウ、ミヤマカラスアゲハなど様々なものが見られました。森の名歌手クロツグミの声も聞くことができました。この湿原はハンノキ林があることが特徴で、光が林の中にも充分にあたるので様々な植物が見られるそうです。一口に湿原といっても、環境によって生息する植物や動物が違い、現在でも変化を遂げているそうです。

そんな中、土嶽地区で八幡湿原自然再生事業が始まり、時間をかけて様々な調査が行われてきました。次はこの調査地を道路沿いから見学しました。先ほどと違い、山際にはアカマツやコナラといった木が見えます。皆さんが熱心に観察していたミズチドリ、チゴザサの可愛らしさも印象的でした。もう少し進

むと少し開けた場所となり、ウスバキトンボが数多く飛んでいました。ちょうどお盆の頃にたくさん飛ぶので、ご先祖様が帰ってきたと考え、「ショウリョウトンボ」との別名があるそうです。最後に再生予定地の中を歩き、どんなところかを実際に見ることができました。湿地だったところが牧場となり、また放置され・・・という変化を遂げてきたこの湿地は、牧草地にある植物(例えばハルガヤ)と湿地にある植物(例えばミズゴケ)と一緒に生息している場所でもありました。ノジコが観察できる場所があるというので行ってみましたが、今回は姿を見ることができませんでした。残念!!

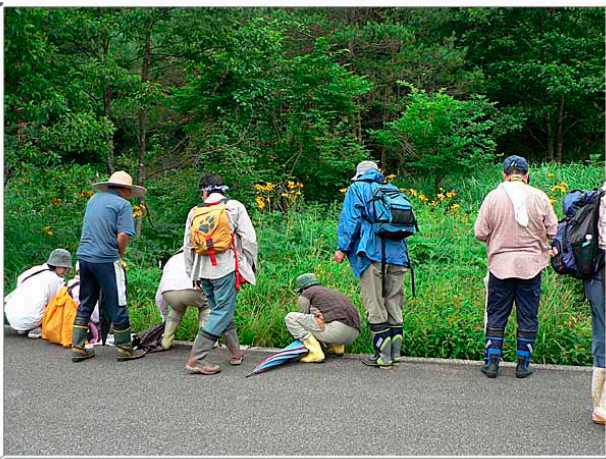
再生事業は、この場所に流れている水路の水の量を調整することで、湿原の復元を計る計画です。野村先生は、「今ある自然、元の自然、どう変わるかプロセスも大切に事業をすすめたい」と話され、どのように工事を進めるかという具体的なこともお話しされました。途中途中で白川が「ここは八幡では昔〇〇という地名だった。」という話をしていました。何十年も前の八幡の姿を頭の中で描くことができる、大変興味深い話でした。地球の温暖化や様々な社会構造の変化の中で、八幡湿原がどんな形で存在するべきか、考えさせられる観察会でした。[こ]



木道にはいり、湿原の土壌についての話。湿原には長い長い歴史がある。



自然再生事業で工事する予定の水路。雨が続いた後だったせいか、水量が多かった。



道路沿いに咲いていたミズチドリ、チゴザサを観察。



湿原の水位で、湿原の環境が大きく左右されるそう。

みなさんの印象に残った物

「大変な事業だということがよくわかった。一般市民が協力できるものは、なにか協力したいと思います。」「再生事業が見えてきた。」「再生前の八幡原をしっかりと見れた。」「ハンノキ林で立ち止まって様子を観察したこと。」「たくさんの花が見れました。」「チゴザサのむらさきの花。」「自然をととても近くで見て聞いたこと。」「湿原の大切さ、美しさ。」「コンクリート水路をとった後の水の流れ?」「再生地の中に入り周辺の環境が見られたこと。初めて入る。」「ミヤマカラスアゲハ!湿原のかけら。」

参加したみなさんの感想

「湿地の植物が豊富なのに驚いた。」「乾燥化を確認できた。」「ウスバキトンボを知ることが出来た。」「再生事業の進行につれ、今日の観察が意味を持つことが感じられるのでしょね。楽しみに思いました。」「土嶽付近をゆっくり観察できてよかったです。常に説明の声が聞こえて、とてもよく分かりました。」「自然の奥深いことに、そして、一つの環境だけをみているのは気付かずに終わっていたことが、ほんとうに参加して知ること大でした。」「私は、ただ植物（特に花）が見られればいいと思っていましたが、それが見られるのは、お世話される方のおかげと知りました。本当にありがとうございました。」「水口谷の湿原（木道を歩きながら、ハンノキ・ヨシ・その下の植物）そんな環境を取り戻すことがどんなに大変か。自然を守ることを大変さが少し分かりました。」「土嶽のいろいろなタイプの植生を一気に見る事ができてよかったです。」「ノジコが見られなくて残念。(2)」「知らないことばかりでいい勉強が出来ました。」「再生事業の説明をきっちりされたこと。」「植物と昆虫、その他の鳥などと、湿原との関わりがよく説明されていました。」「再生地の観察を毎年繰り返すことが大切だと思う。」「湿原のカケラたちが大きくなってくれることが楽しみです。」

観 察 会 案 内

氷河期の生き残り、カワシンジュガイの観察 小鳥の巣箱づくり

開催日時：2006年8月5日（土）9:30

集合場所：芸北文化ホール

講師：内藤順一

準備：水に入れる服装、（あれば）箱眼鏡、双眼鏡、弁当、メモ、おやつ等

定員数：30名

参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

芸北が世界の分布南限にあたるカワシンジュガイを観察します。カワシンジュガイは、河川の環境だけでなく、アマゴが居ないと繁殖できないうえ、アブラボテの繁殖に重要な役割を果たします。観察会では、これらの関係を整理して、現地で生息状況を観察します。岸からでも観察できますが、箱眼鏡などを使うと、より近くで観察できます。子供にオススメです。



開催日時：2006年8月20日（日）9:30

集合場所：八幡小学校

講師：暮町昌保

準備：作業のできる服装、ものさし、筆記用具、（あれば）のこぎり、メモ、おやつ等

定員数：30名

参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）+材料代実費

シジュウカラやヤマガラなど、カラ類は、比較的人の近くにも巣をつくります。郵便ポストで巣作りする姿がニュースになったりもします。昨年作成し、八幡にかけられた巣ではヤマガラがたくさんの子を育てていました。あなたの家の前にも巣箱を置いてみませんか？



観 察 会 案 内

土嶽の植生調査、秋

開催日時：2006年9月18日（月）9:30

集合場所：高原の自然館

講師：

準備：汚れても良い服装、長靴、弁当など、

定員数：30名

参加費：無料

実験地の継続調査を行います。7月に行った夏の調査参加者からは「去年にくらべ湿地生の植物が多く見られた、もっと参加したいと思います。」「現地で以前のデータを見ながら、その変化を実際に目で見られたのがよかった。」などの感想がありました。あぜ波をせっちしてから3シーズン目の実験地はどうなっているのでしょうか？はじめての方も、気軽にご参加ください。



今後の予定は次のとおりとなっています。参加の申し込みや不明な点などは、事務局の方までお気軽にお問い合わせ下さい。

よろしくおねがいします。



2006年

8月5日 カワシンジュガイの観察

8月20日 巣箱づくり

9月18日 植生調査

9月24日 雲月山の植物

10月8日 キノコの観察会

10月9日 サツキマスの産卵

11月11日 冬鳥の観察・紅葉とゴギの産卵

11月19日 千町原の草刈り

2007年

1月21日 アニマルトラッキング

2月18日 スノートレッキング

3月11日 苧尾トレッキング

ー インターネット版苧尾電波塔の紹介と購読移行のお願いー

苧尾電波塔はインターネットを利用したe-mailでも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。さらにe-mailなら、関連ホームページを見たり、そのまま返事することで観察会の申し込みができたり、とっても便利です。パソコンでe-mailをお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページをご覧ください。

高原の自然館ホームページからは、苧尾電波塔（紙版）のpdfファイルをそのままダウンロードできます。郵送している紙版に比べ、鮮やかなカラー写真を見ることができ、ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます。そこで、高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】<http://shizenkan.info/>

高原からの花だより



高原の新しい花風景，オオハンゴンソウ

八幡高原を歩いていると、一面に広がる黄色い花の群生に出会うことがあります。真夏に咲く黄色の花といえばヒマワリが思い浮かびますが、これはオオハンゴンソウの群落です。

オオハンゴンソウは北アメリカ原産の多年草で、明治時代の中頃に観賞用の園芸植物として持ち込まれました。その後、逸出したものが湿った草地に定着し、今では北海道から九州まで各地で見ることができます。草丈は3mにも達するそうですが、芸北のものは1.5mほどで開花・結実します。茎の下方に付く葉には深い切れ込みがあります。花は直径10cmほどで、真ん中の花床が盛り上がるのが特徴です。花が終わると花床はさらに発達して長い果穂を作ります。「葉に切れ込みのあるコーンフラワー (cutleaf

coneflower)」という英語名はここから付けられたのでしよう。

青空の下に広がるオオハンゴンソウの群落はいかにも夏らしい景色なのですが、複雑な気持ちにならざるを得ません。何も知らずに見ればきれいな花畑なのですが、帰化植物であるがために、素直に受け入れがたいものがあります。特に、原流域にまで群落を作るオオハンゴンソウには空恐ろしいものを感じます。一方で、単純にきれいな景色だと考えることもできます。すっかり夏の高原風景として定着したこの植物とどのようにつき合っていくべきなのか、考えるほど思いは複雑になります。

この記事は『広報きたひろしま 18号』に掲載されたものを転載したものです。

暑中お見舞い申し上げます。雨続きの涼しい梅雨から一転して、連日のように最高気温が更新されています。八幡の夏もピークを迎え、自然館の室温も30度近くになり、扇風機が回っています。クール・ビズで推奨されるエアコンの設定温度と同じくらいですね。ただ、今の暑さもすぐに去り、お盆のころには布団をかけて眠るようになります。そうすると、涼を求める人が八幡にやってくるように、僕は暑い夏を求めて出かけてゆきます。おかしなものです。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/> staff@shizenkan.info
冬季連絡先 : 0826-35-0070 (芸北文化ホール)